

青嶺

Seirei

文責 田中泰司

伊万里市立青嶺中学校

長い二学期が 始まりました

残暑が厳しい中ですが二学期が始まりました。朝、子どもたちを出迎え挨拶や言葉を交わしましたが、みんな元気でそれぞれ充実した夏休みだったことを感じました。二学期は一番長い学期で、多くの行事、学習活動などを通して成長し、互いを理解し合える絶好の機会です。自分の目標を決めて充実した時にしてほしいと願います。始業式では「挨拶」についてふれました。自分から大きな声で挨拶をすることで元気が出る、だからどんどん挨拶を交わして、活気のある笑顔があふれる学校にしたい。こうと投げかけました。将来、自分を助ける大きなスキルになるので、ご家庭でも是非、話題にされてみて下さい。

「心にしみる朗読と、平和について考えた時間」
去る8月4日に体育館で平和集会が行われました。二年生が運営し、絵本の朗読、教頭先生からの講話がありました。

事前に練習を重ね、広島原子爆弾投下の前後、そして現在を交互に描き、不戦への誓いが綴られていました。「お話どんぐり」の羽柴さんからピアノ伴奏をして頂き、朗読の世界に全員が引き込まれました。

その後には吉富教頭から第二次大戦の推移の解説、ジョンレノンの「イマジジン」からのメッセージの紹介などのお話がありました。

実はその前の朗読があまりに素晴らしく、吉富教頭と私は涙が止まらず、すぐには話ができないほどでした。

皆で真剣に参加し今の貴重な平和に感謝し、戦争の悲惨さについて悼み、自分はどうすべきかを考えた大事な時間でした。準備してくれた二年生に感謝です。

戦争を伝える難しさ

前回、アメリカ人のクラスメートについて書きましたが、教師として、大人として平和学習の難しさを感じることもよくあります。

佐世保では戦争末期空襲があり、校区内も爆弾が落とされ亡くなった方がおられます。長崎は原子爆弾が投下された県でもあり、平和学習に力を入れていました。しかし、戦争に関する情報量が多すぎ、たった数時間では伝えきれぬものではないと思います。

またどこをどう選択して、どの立場で伝えるかによっても生徒の捉え方は大きく変わります。私になるべく空襲までの経緯を、客観的な情報を提示し、中立の立場で伝えようと思いました。

授業では「戦争を行わないために」「自分はどうか考え行動するべきか」を考えてほしいからです。

授業後の感想の中に、彼がこう書いていました。「僕は米軍です。たくさん殺しました。すいませんでした」年齢、立場、不十分な日本語での説明：彼には罪悪感しか残らなかったのでしょうか。悲惨な目にあうのはいつでも無垢の庶民です。爆撃を行った兵士も戦後に精神を病んだ方が大勢おられるそうです。

平和や戦争について学ぶとき、非常に偏った考えや思想で学習が進められることが散見されます。「歴史」「教育」にはどんなに配慮

しても「中立」はあり得ないのでしよう。それは個人の「主観」が排除できないからです。

であるならば、「戦争」を取り扱うことに「おそれ」と「謙虚さ」を持ち続けることが必要ではないでしょうか。そして、一つの見方に固執せず、常に学び、知識や考え方を更新していく柔軟さが求められるように思います。

彼とはその後、時間をかけていいねいに話をしました。クラスの他の生徒たちの感想の中に、アメリカを一方的に憎むような、または日本が悪いのだから仕方ないといったような偏ったものがなかったのが救いでした。

戦後、長い時間がたち、戦争経験者が少なくなるにつれその記憶が薄れてしまうかもしれません。我々大人は子供たちに、「想像力」と、偏りのない広い視野を育んでいく責任があります。

「おそれ」を抱きながら歴史を学び、そして伝え、将来に渡って平和な世界を、みんなと共に創り上げていきたいと心から思います。

子育て雑感

初めて自分で人生の選択をしたのはいつだったか・・・恐らく中学受験をした時です。髪を坊主に切りたくなくて、県内で唯一長髪が許されていた附属中学校を受験しました。

当時は試験で合格したらくじ引きが待っていました。自分で引たくじは無情にも「×」。希望はかないませんでした。高校受験は「○」第一希望で新しい人生が開けると無い上がったものです。しかしあまりのレベルの高さに劣等感ばかり募り苦しい時代でした。勉強にもなかなかついていけず、大学入試は次々と不合格に：その数五回。第六希望の学校に何とか入れました。

目まぐるしく生きてきて、その後も分岐点がたくさんありました。その時々の結果はあくまでも一時的なものです。そして自分にとってどんな影響があったのかは終わってみなければ分かりません。希望して入ったわけではない場所で素晴らしい出会いや人生を変える出来事に出会えることもたくさんあります。

大事なことは今いる場所で一杯頑張り、自分を磨き、居心地の良い場所に自分でしていくことです。次のステージへ。皆さんもそして我々もみんな「これからの人」なのです。

校長室より

終業式の日からコロナにやられ夏の半分は体調を崩していました。後半は右足の肉離れに見舞われ年齢をひしひしと実感しているところです。皆さんもお大事に。